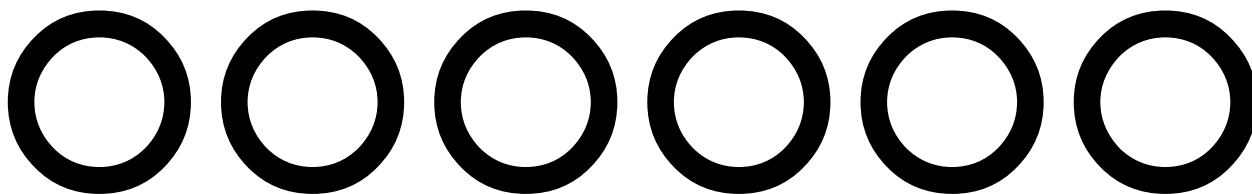


西区版



浜松市 区版避難行動計画

【この冊子でやって欲しい3つのこと】

1 避難場所を決める

①「1. 災害から身を守る」を読む

P1~P16

②家族で避難場所を考え、巻末の「防災マップ」の地図やメモ欄に記入する

避難経路の決め方はP〇へ
防災マップは巻末へ**2 防災マップを目の付きやすい所に貼る**

「防災マップ」に避難場所などを書き込んだら、毎日目にする災害時も安全な所に貼る

3 My 防災カードをつくる

「防災カード」に、自分の名前、緊急連絡先、避難所などを記入し、かばんや財布などに入れて常に携帯する（家族みんながそれぞれ携帯しよう！）

防災カードは巻末へ

- ※ページ数は変更になることがあります。
- ※イラスト、図面などについては仮の内容です。
- ※この資料をご一読ください。会議当日は冊子の構成や内容（特に「1. 災害から身を守る」）についての話し合いを行います。
- ※タイトルについても当日話し合いますのでアイデアをお考えください。

平成24年〇月

災害時の避難行動

地震

南区では東海地震が発生した場合、震度6弱～震度6強の揺れが予測されています。津波の前に、まずは地震の揺れから身を守ることが大切です。

地震発生後の避難方法

※この避難の流れは、本策定会議を通じてまとめていきます

緊急地震速報を聞いたら(テレビ・ラジオなど)

地震発生

まず自分の身を守る

YES・NOであなたのとるべき行動を確認してください

チェック1
今いる場所は、
海岸、浜名湖、川の近くである

YES

ただちに津波避難ビルや高台に避難
津波警報発令中は避難場所から動きません

→5～6へ「ジ」へ

チェック2
今いる場所ががけ崩れの恐れがある

YES

ただちに近くの安全な場所に避難
(公園、空地、農地など)

NO

安全を確認後、自宅へ

チェック2
自宅が壊れて住めない状態である
余震などで自宅が倒壊しそうである

YES

近くの安全な公園、空地、農地、一次避難地、避難所へ

火災など一次避難地に危険が迫っている!

一次避難地とは

避難所とは

広域避難地へ
広域避難地とは

チェック3
自宅に火災が迫っている

YES

NO

自宅に待機

※自宅付近の安全が確認できれば自宅に待機しましょう。

避難地が分からない人・・・P15へ

東海地震の情報を聞いたら

東海地震に関連する調査情報



東海地震注意情報



東海地震予知情報



こんなときどうする ～とっさの判断～

1. 屋内にいる

家の中



イラスト

家の中の安全ゾーンを作っておき、逃げ込む

避難口確保のためにドアを開ける

大きな地震から身を守るために、普段から家具の固定や家具の配置の工夫などを行うことが大切です
→ ページへ

エレベーターの中

火を扱っていたら

デパート・スーパー

ビル・オフィス

地下街

2. 屋外にいる

路上

避難地に向かうときは・・・

- ・家の火の元を確認
- ・家のブレーカーを切る
- ・ヘルメットや防災ずきんをかぶる
- ・非常持出品の確認
- ・余震などで看板やガラスなどの落下に注意
- ・崩れそうなブロック塀に注意
- ・電線に触らない

住宅街

電車やバスなどの車内

車の運転中

津波

地震後、すぐに津波は海岸に到達します
揺れがおさまったらただちにできるだけ高い場所に避難

津波からの避難方法

※この避難の流れは、本策定会議を通じてまとめていきます

大きな揺れや長い時間の揺れを感じたら

- ①まずは地震の揺れから身を守る
- ②揺れがおさまったらただちに津波避難ビルや高台に避難
- ③津波警報が解除されるまでは、避難場所から移動しない

大きな揺れを感じなくても、津波警報が発令されたら

- ①警報発令後、ただちに津波避難ビルや高台に避難
- ②津波警報が解除されるまでは、避難場所から移動しない

大きな揺れを感じなくても、津波注意報が発令されたら

- ①注意報発令後、ただちに海の中や海岸から離れる
- ②注意報が解除されるまでは、海岸には近づかない

東海地震の警戒宣言が出されたら

- ①警戒宣言発令後、ただちに津波避難ビルや高台に避難

津波警報とは

大津波警報 3m以上の津波 ただちに高台や避難ビルに避難 (サイレン吹鳴パターン)

津波警報 1~3mの津波 ただちに高台や避難ビルに避難 (サイレン吹鳴パターン)

津波注意報 0.2~1mの津波 ただちに海岸から離れる (サイレン吹鳴パターン)

津波からの避難 6つのポイント

1. 強い揺れや長い時間の揺れを感じ、揺れがおさまったすぐ避難

地震発生後、津波はすぐに海岸に到達します
津波警報を待たずにただちに避難します

2. 「津波だ」「逃げろ」と呼びかけしながら率先して避難

あなたが呼びかけながら避難することで、周りの人たちが避難するきっかけとなります

3. より高いところに避難

津波はどの高さまで到達するかわかりません
また、わずかな水深でも流される危険性があります
想定にとらわれず、より高いところへ、可能な限り避難します

4. 津波警報中は避難場所から帰らない

津波は繰り返し襲ってきます
津波警報中に帰宅し、被災した人がいます

5. 携帯ラジオなどで情報収集

携帯ラジオを身につけていれば、停電時も情報を入手できます
防災ほっとメールを受信しましょう

6. あらかじめ、家族や地域でどのように避難するか考えておく

地震はいつ発生するかわかりません
いざというとき家族みんなが避難できるよう、あらかじめ避難場所を考えておきます
どこを通過してどこに逃げるのか、地図を見ながら、また実際歩きながら考えます
→巻末の防災マップへ

津波避難ビル

いざというときのために、あらかじめ自分の家の近くの津波避難ビルの登り口を確認しておきましょう

舞阪地区

※名称、階数、施錠状況等を記載

雄踏地区

※名称、階数、施錠状況等を記載

入野地区

※名称、階数、施錠状況等を記載

篠原地区

※名称、階数、施錠状況等を記載

庄内地区

※名称、階数、施錠状況等を記載

山や丘陵地の近くであれば
できるだけ高台へ



この標識が目印

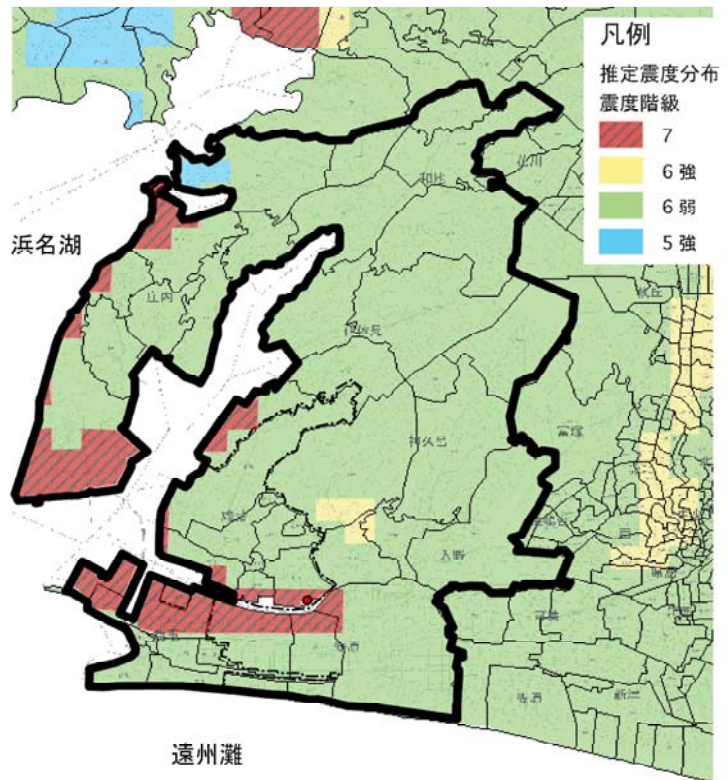


地震の揺れ（静岡県第3次地震被害想定（平成13年5月）より）

右図は、推定される東海地震が発生した場合に、各地域で予想される震度を気象庁震度階級に合わせて推定したものです。

西区は概ね震度6弱から震度7の揺れが想定されています。

震度 7 	リスト、イメージ説明
震度 6 強 	
震度 6 弱 	
震度 5 強 	



液状化危険度（静岡県第3次地震被害想定（平成13年5月）より）

右図は、推定される東海地震が発生した場合に、各地域で予想される地盤の液状化危険度を4階級に区分したものです。

西区では、海岸沿いの埋立地や海岸平野において、危険度が高いと想定されています。

<液状化とは>

□□□□□□□□

□□□□□□□□

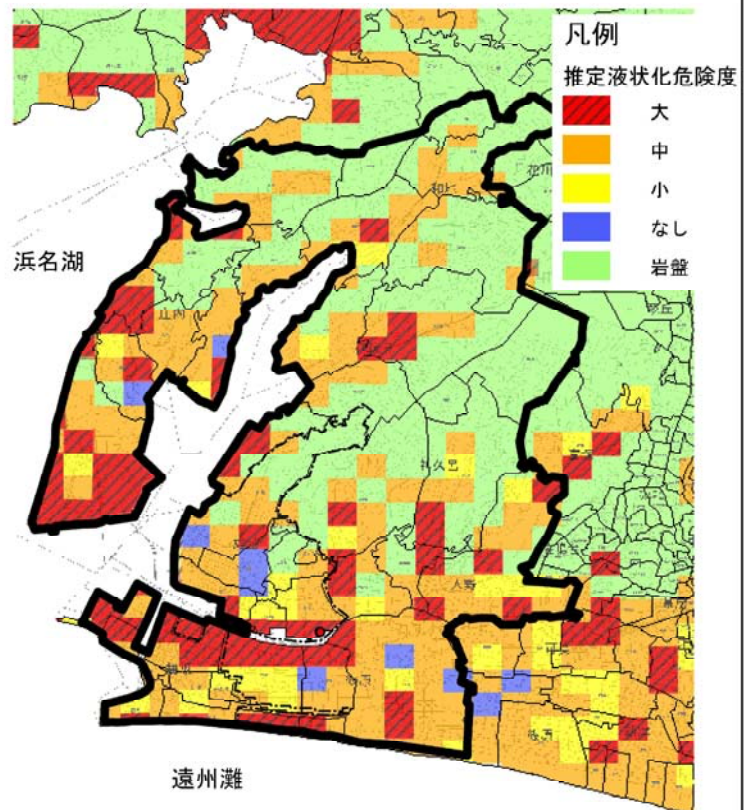
□□□□□□□□

□□□□□□□□

□□□□□□□□

□□□□□□□□

リスト、イメージ説明



風水害

激しい雨の時、台風の際は水害に警戒を！

携帯ラジオなどで降雨の状況や河川の水位上昇の情報を入手し、
自分が住んでいる場所に危険が迫ったら、避難情報を待たずに避難しましょう

避難時の注意点

時間がある場合

近所の人と一緒に避難所へ

時間がない場合 避難所が遠い場合

冠水が始まっている状況や雨の激しい時、
強風時は外に出るのは危険！

天竜川の氾濫の場合 ⇒ 近くの頑丈な高い建物の2階以上に避難
中小河川の氾濫の場合 ⇒ 自宅の2階以上に避難

暴風・高潮・竜巻に注意

避難する前に連絡を！



動きやすい服装で避難



車は控えて歩いて避難



浸水箇所を歩行する時は

たとえ10cmの浸水でも足元が見えず危険！

浅くても注意

足元に注意

地下道に注意！

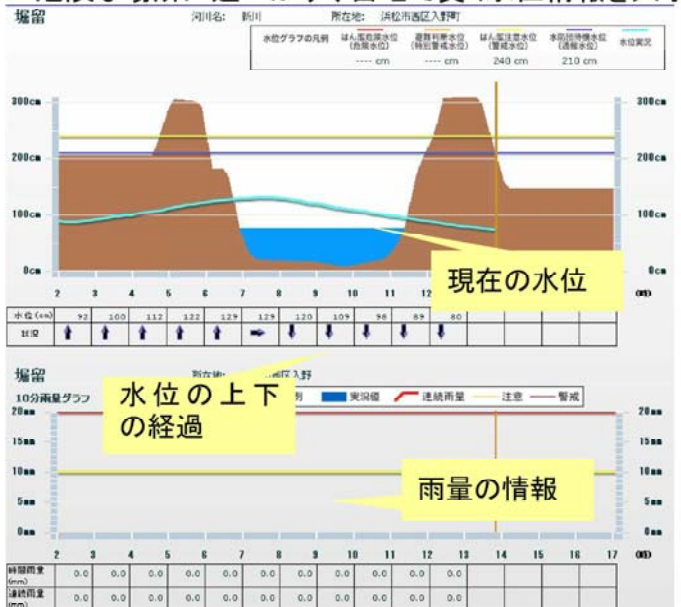
危険な場所には近づかないで！ 増水した河川は大変危険！ 危険な場所に近づかず、自宅で賢く水位情報を入手しよう

静岡県土木総合防災情報「サイポスレーダー」

ホームページアドレス ○○○○○○○○○○○○○○○○○

付近の河川で情報が得られる地点

河川名	観測所	水位 (m)		
		氾濫注意水位	避難判断水位	氾濫危険水位
天竜川	掛塚橋	2.60	—	—
新川	宇布見橋	2.50	—	—
	西鴨江	1.50	—	—
堀留川	堀留	2.40	—	—



雨の降り方と雨量（1時間）の目安

停電時は携帯ラジオなどで情報収集を

川や崖地の近くの方は、大雨となる前が避難のタイミング

おおよその 1時間雨量	雨の降り方のイメージ	
5～10 ミリ	イラスト	雨がトタンを打つ音が聞こえ、あちこちに水たまりができる
10～20 ミリ	イラスト	雨音で話がよく聞き取れない。一面に水たまりができる
20～30 ミリ	イラスト	土砂降りで側溝があふれ、小さな川の氾濫が始まる
30 ミリ以上	イラスト	バケツをひっくり返したような激しい雨。山崩れやがけ崩れがおきやすい

避難情報を入手した場合

避難情報はあくまで参考情報として
危険を感じたら自分の判断で避難を！

新川、伊佐地川、花川など、川の近くにお住まいの方
低い土地に住んでいる方は特に気をつけて情報を聞いてください。

情報	状況	このように行動してください	
		要援護者など、避難に時間が必要な人	それ以外の人
事前情報	浜松市南部に大雨警報、洪水警報が発表された	家族との連絡、非常用持ち出し品の準備を始める	情報に引き続き注意

避難準備情報

避難勧告

危険 避難指示

冠水が始まってから避難や外出すると危険です。
小河川のはん濫時は安全を確認した上で自宅の2階に待機します。

避難情報とは

避難情報	意味
避難準備情報	<ul style="list-style-type: none"> 河川はん濫の情報への注意喚起を促し、避難のための準備を呼びかける情報 避難に時間のかかる要援護者などは避難を呼びかける情報
避難勧告	<ul style="list-style-type: none"> 河川がはん濫する危険のある水位に達する恐れがあることを知らせ、避難を促す情報
避難指示	<ul style="list-style-type: none"> 河川のはん濫が目前に迫った時や堤防が決壊した時に出され、すみやかな避難を呼びかける情報

土砂災害

地震の後、激しい雨や長雨の時など土砂災害に警戒を！
自宅が土砂災害危険箇所なのか「防災マップ」で確かめておきましょう！

自分が住んでいる場所が土砂災害の危険性がある人は危ないと感じたら
避難情報を待たずに避難しよう！

- 土砂災害危険箇所の近くに自分の住んでいるところがある
- 自宅が山や崖地に近い

土砂災害危険箇所は
巻末「防災マップ」で確認

□降雨の状況に注意！

- ・雨が1時間に20mm以上になった
- ・降り始めてから100mm以上になった

□裏山や崖地の状態に注意！

普段と違う現象は起きてないか…

ページ下の前兆現象を確認

危険を感じたら、
安全と思われる場所に避難！

土砂災害発生前の避難方法

時間がある場合

避難所へ近所の人と
一緒に避難

避難する前には連絡を！

時間がない場合

(避難所が遠い、夜間や風雨で
避難所に向かうのは危険など)

避難所でなくても近くの安全な家など、
身の安全が守れる場所へ

安全な服装で避難

緊急事態

家の中で斜面に一番遠い
2階の部屋へ移動
(最低限の危険回避を)

雨が止んでも注意が必要

日頃から近くの崖地に注意を払って！

近くに崖地がある地域では、日頃から崖地の様子に注意し、前兆現象や異常現象にいち早く気づき、
自主避難することが重要です

崖崩れの前兆現象

地すべりの前兆現象

土石流の前兆現象

避難情報を入手した場合

避難情報はあくまで参考情報として
危険を感じたら自分の判断で避難を！

情報など	状況	このように行動してください
情報収集	・大雨注意報が発令(静岡地方気象台)	・テレビ、ラジオ等により気象情報に注意する
	・大雨警報が発令(静岡地方気象台)	・崖地近くに住む人は、崖地周辺の異常な現象に注意する
避難準備情報	・土砂災害警戒情報が発表(静岡地方気象台、静岡県)	
避難勧告	・	
避難指示	・	・

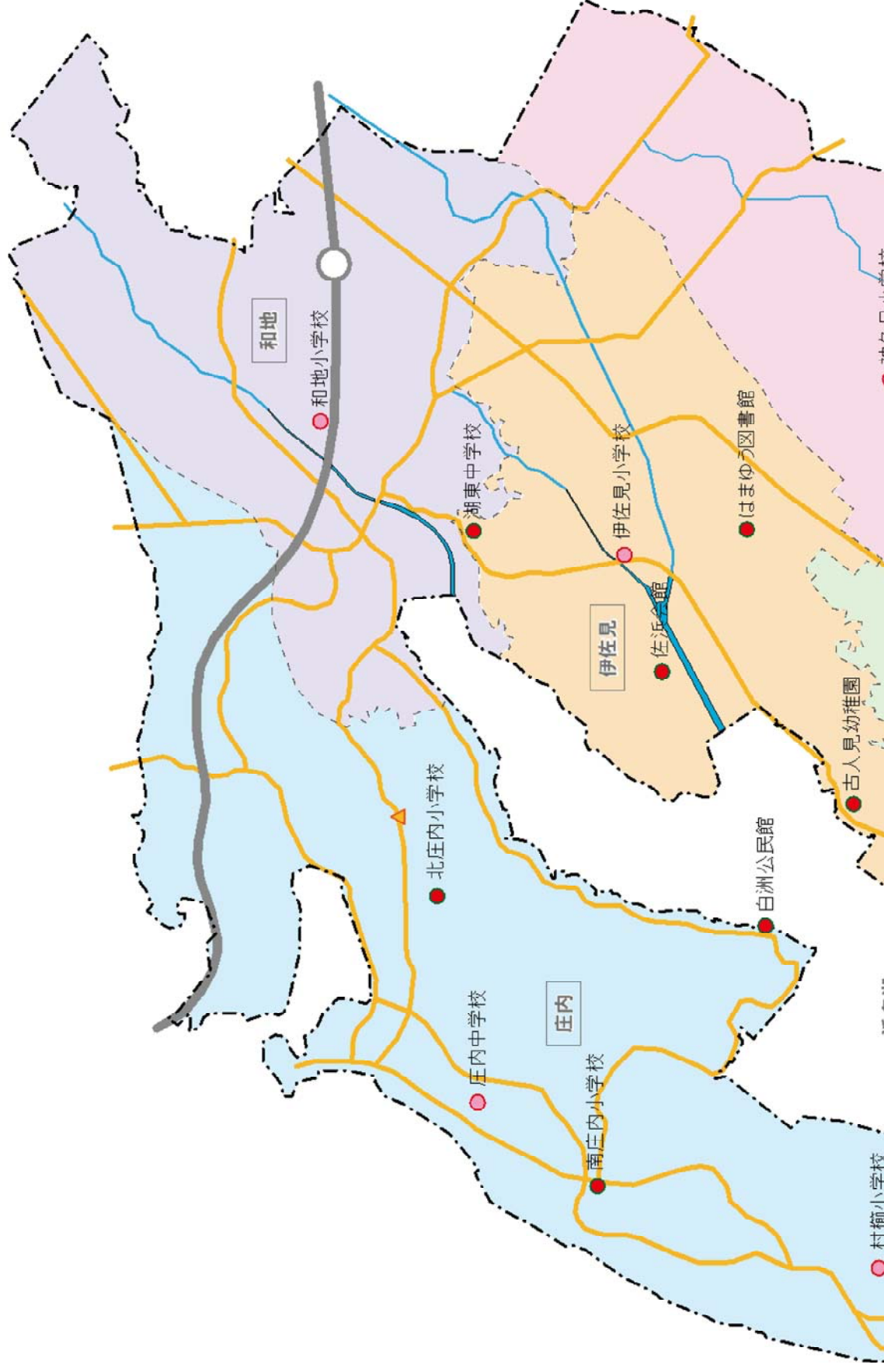
危険

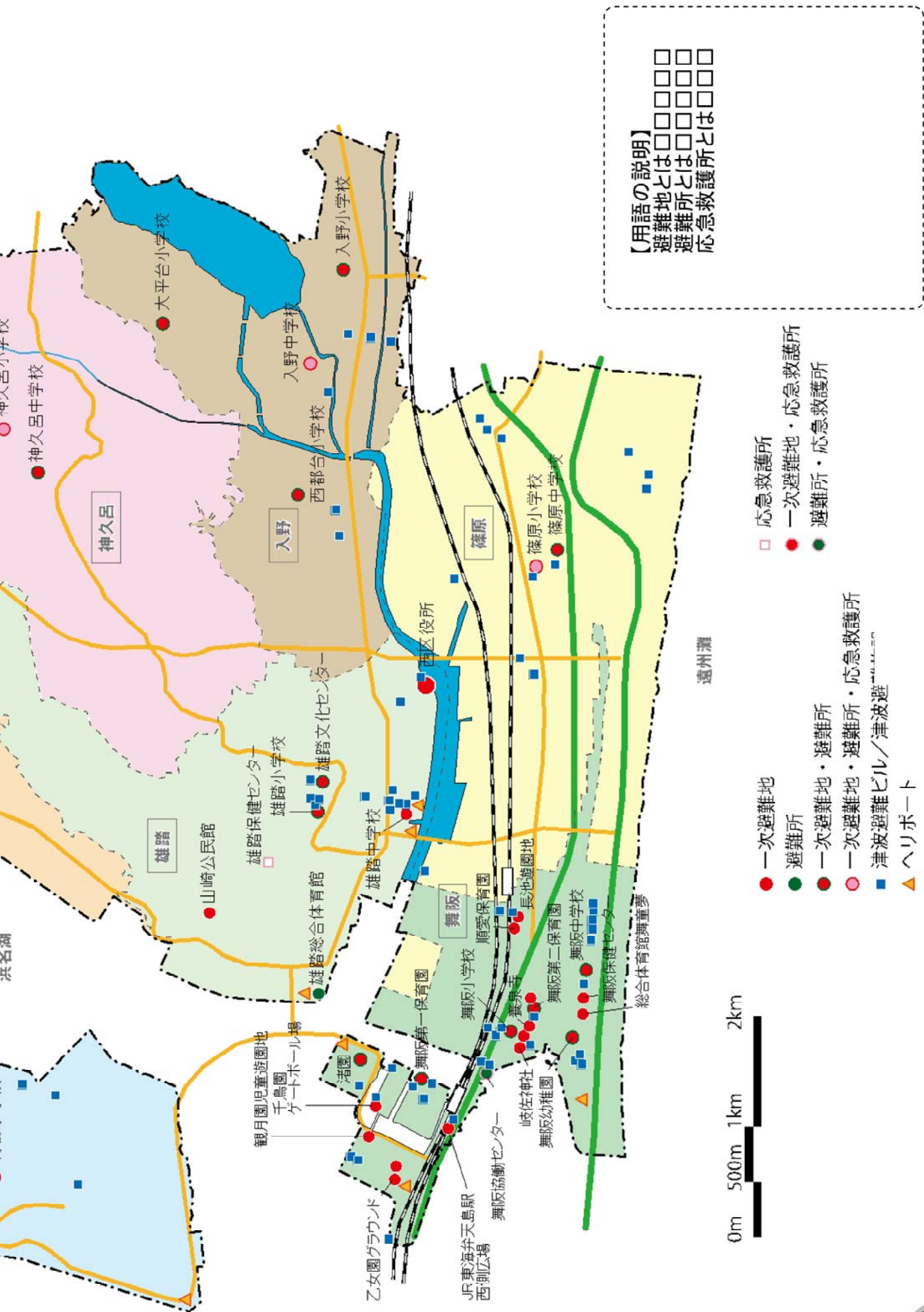
崖崩れや河川の氾濫などを発見したら

連絡先

西区 防災施設マップ

- ・普段から地震、津波、風水害、土砂災害の際の避難場所を考えておきましょう。
- ・巻末に折り込まれている拡大図面も併せて参照してください。





【用語の説明】
 避難地とは□□□□□□
 避難所とは□□□□□□
 応急救護所とは□□□□

- 応急救護所
- 一次避難地・応急救護所
- 避難所・応急救護所

- 一次避難地
- 避難所
- 一次避難地・避難所
- 一次避難地・避難所・応急救護所
- 津波避難ビル/津波避難
- ▲ ハリポート



●建物や塀の備え

建物の耐震化 浜松市プロジェクト TOUKAI (東海・倒壊) - O 総合支援事業



□ **ステップ1：専門家による無料耐震診断**

- ・希望者に「静岡県耐震診断補強相談士」を無料で派遣し、簡単な耐震診断を行っています。
- ・ご希望の方は電話で建築行政課までお申し込みください。



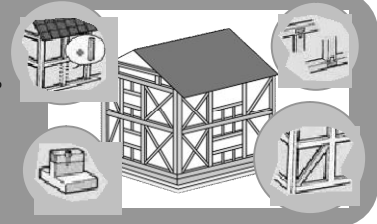
ステップ2：補強計画の作成

耐震補強工事に必要な補強計画を作成します。
補強計画を作成するための費用に対し補助制度があります。

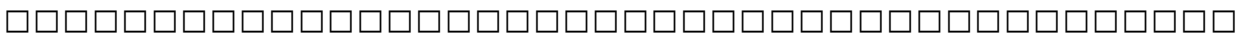


ステップ3：耐震補強工事

作成した補強計画に基づき、適切な耐震補強工事を行います。
耐震補強工事に必要な費用に対し補助制度があります。



ブロック塀の安全チェック



□

チェック①

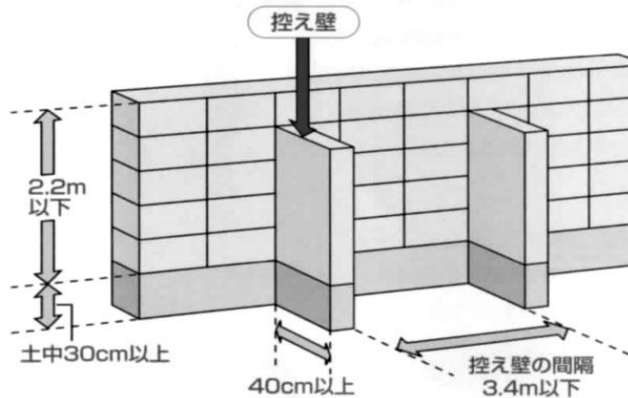
高さは2.2m以下になっているか。

チェック②

基礎コンクリートは30cm以上埋め込まれているか。

チェック③

ひび割れ、傾きなどはないか。
鉄筋がさびていないか。



チェック④

支えとなる控え壁は、3.4m以下の間隔で設けてあるか。
長さは40cm以上あるか。

チェック⑤

直径9mmの鉄筋が縦横とも80cm以下の間隔で入っており、しっかりと固定されているか。

手作り防災カード（裏面）

→切り離して利用する

手作り防災カード（裏面）

防災マップ

（折込）

→家の目立つ所に貼っていただく

※避難地・避難所場所、津波想定、土砂災害危険箇所、
洪水被害想定等を表示

手作り防災カード（表面）

手作り防災カード（表面）

手作り防災カード（表面）

手作り防災カード（表面）

手作り防災カード（表面）

手作り防災カード（表面）

手作り防災カード（表面）

手作り防災カード（表面）

手作り防災カード（表面）

手作り防災カード（表面）